

「杜の都環境プラン」の 進捗状況について

環 境 局

1 「杜の都環境プラン」の概要 p3

2 定量目標の進捗とこれまでの主な取り組み

(1) 低炭素都市づくり p5

(2) 資源循環都市づくり p10

(3) 自然共生都市づくり p15

(4) 快適環境都市づくり p21

(5) 良好な環境を支える
仕組みづくり・人づくり p25

カッコウ
カッコウ



1 「杜の都環境プラン」の概要

位置づけ

- ・ 仙台市環境基本条例第8条に基づく「環境基本計画」
- ・ 本市の環境の保全及び創造に関わる施策の基本的な方向を定めるものとして、2011年3月に策定
- ・ 本市総合計画で掲げる本市の都市像の実現を図るための環境面の部門別計画

計画期間

2011年度から2020年度までの10年間

※計画期間の中間年度である2015年度に計画の進捗について中間評価を実施。
東日本大震災の影響などの社会情勢の変化を踏まえ、計画を一部改定。

施策体系

環境都市像

「杜」と生き、「人」が生きる都・仙台

低炭素都市

まち全体に省エネルギーの仕組みが備わった都市

資源循環都市

資源や物が大切に、また循環的に利活用されている都市

自然共生都市

自然や生態系が大切にされ、その恵みが享受できる都市

快適環境都市

市民の健康を保ち、快適さや地域の個性、魅力を体感できる都市

施策体系

① 低炭素
都市づくり

② 資源循環
都市づくり

③ 自然共生
都市づくり

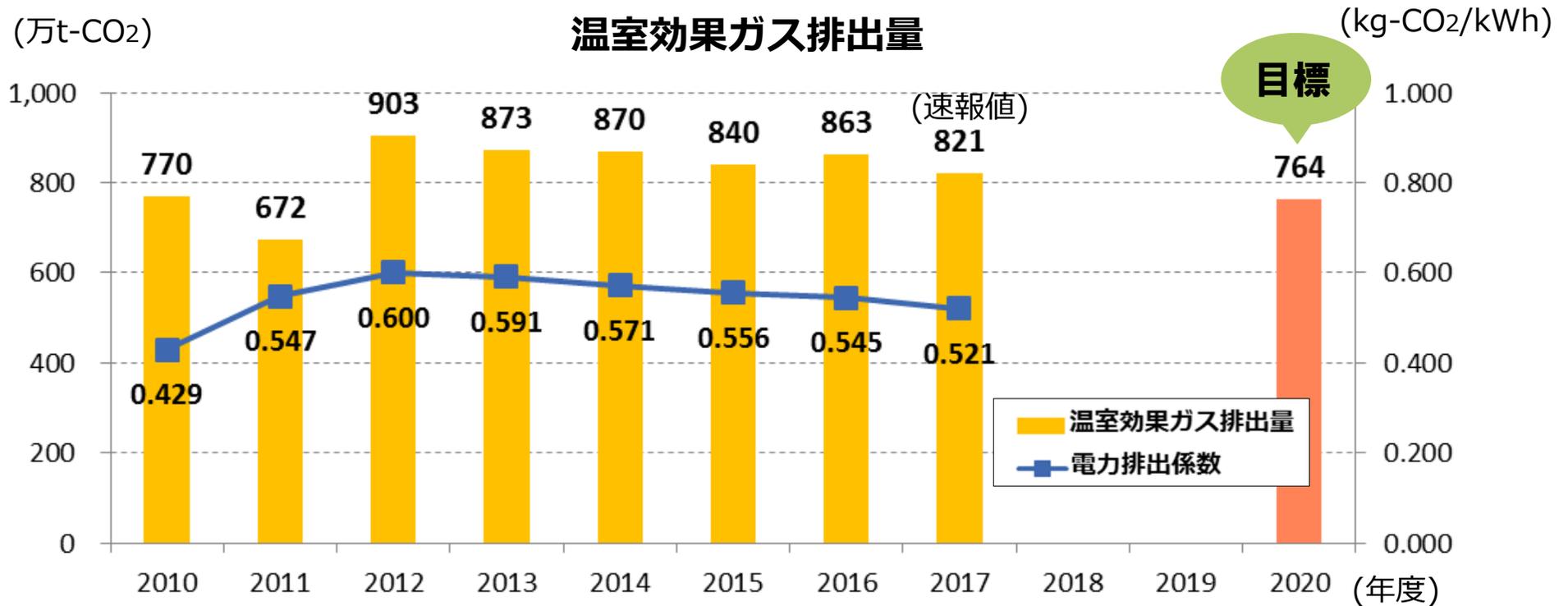
④ 快適環境
都市づくり

⑤ 良好な環境を支える仕組みづくり・人づくり

2 定量目標の進捗とこれまでの主な取り組み

(1) 低炭素都市づくり

【目標】 2020年度における温室効果ガス排出量を2010年度比で0.8%以上削減



- ・ 近年減少傾向にあるものの、震災前より高い水準で推移
- ・ 排出量の約6割を占める事業活動からの排出削減を効果的に進めるなど、一層の取り組みが必要

主な取り組み

① 快適な暮らしや地域経済を支える省エネ促進

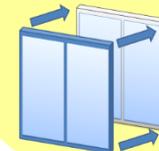
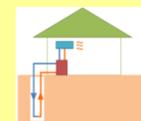
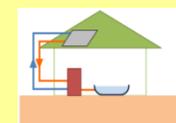
熱エネルギー有効活用支援補助制度 (Let's 熱活！補助金)

- 窓断熱改修やエネファーム等の導入を推進するための補助を実施

年度	補助件数 (件)	温室効果ガス削減効果 (t-CO ₂)
2016	323	199.5
2017	366	229.7
2018	527	219.2

コージェネレーション
(エネファームなど)

太陽熱利用システム



地中熱利用システム

窓断熱改修
(内窓設置など)

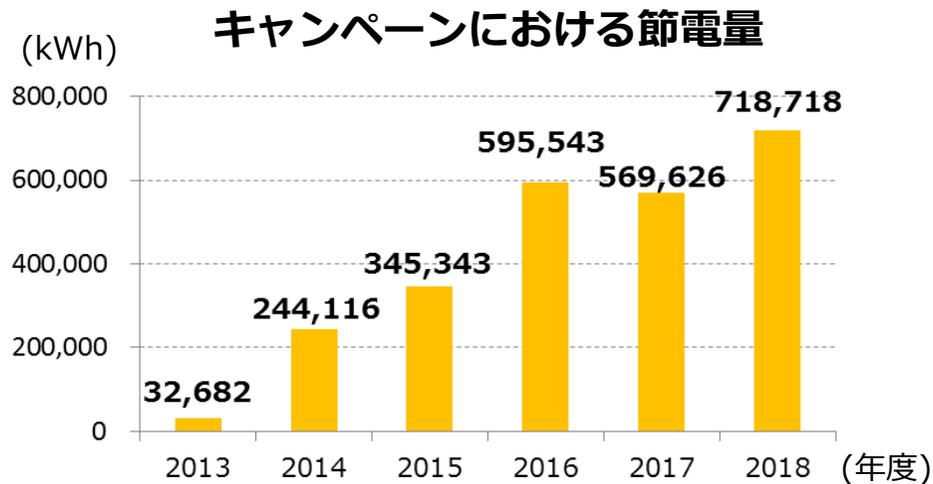
(仮称) 温室効果ガス削減アクションプログラムの検討

- 事業者が計画的な排出削減に取り組む「(仮称) 温室効果ガス削減アクションプログラム」の導入を目指し、モデル事業を行うとともに、その結果を踏まえながら、制度の具体化に向け検討

② せんだいE-Action（市民・事業者・行政の協働による3E推進）

伊達な節電所キャンペーン

- 家庭や事業所の節電や創エネにより得られた余剰電力を投稿してもらい、Webサイト上に節電所を仮想建設し「見える化」



伊達な節電所キャンペーン

3 E 推進地区支援事業（緑のカーテン普及）

- 小学校を中心としたモデル地区で、緑のカーテンの設置を通じた環境学習と啓発を実施



緑のカーテン普及

③環境にやさしい交通手段への転換

公共交通利用の促進

- ・地下鉄東西線の整備やIC乗車券の導入、パークアンドライド駐車場の整備等により、公共交通の利用を促進
- ・市民や交通事業者等と協働し、公共交通利用の周知啓発を図る「せんだいスマート」の取り組みを推進



地下鉄東西線

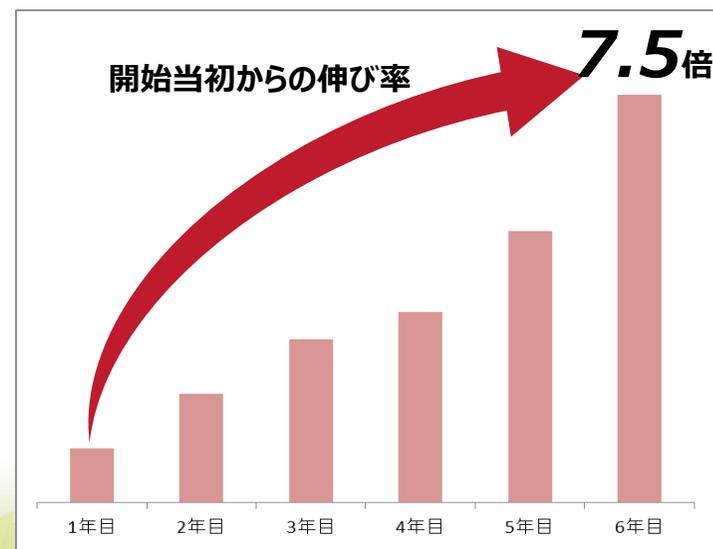
自転車利用の推進

- ・コミュニティサイクル「ダテバイク」の導入（2013年3月）や、自転車走行空間の整備等により、自転車の利用を促進



ダテバイク

ダテバイクの利用回数



【出典】株式会社ドコモ・バイクシェア資料

④市役所の率先的な取り組み

再生可能エネルギー等の利用推進

- ・指定避難所を中心とした196か所（2018年度末現在）に太陽光発電と蓄電池を組み合わせた防災対応型太陽光発電システムを導入
- ・ごみ焼却工場における廃棄物発電や、上下水道施設における小水力発電など、再生可能エネルギー等の利用を推進



防災型太陽光発電システム

公共施設の省エネ化

- ・公共施設の省エネを進めるため、照明のLED化やBEMSの導入などを実施

次世代自動車の率先導入

- ・電気自動車等の次世代自動車を公用車として率先導入

電気自動車・プラグインハイブリット自動車導入状況

51台 [全公用車中2.6%] (2017年度末時点)

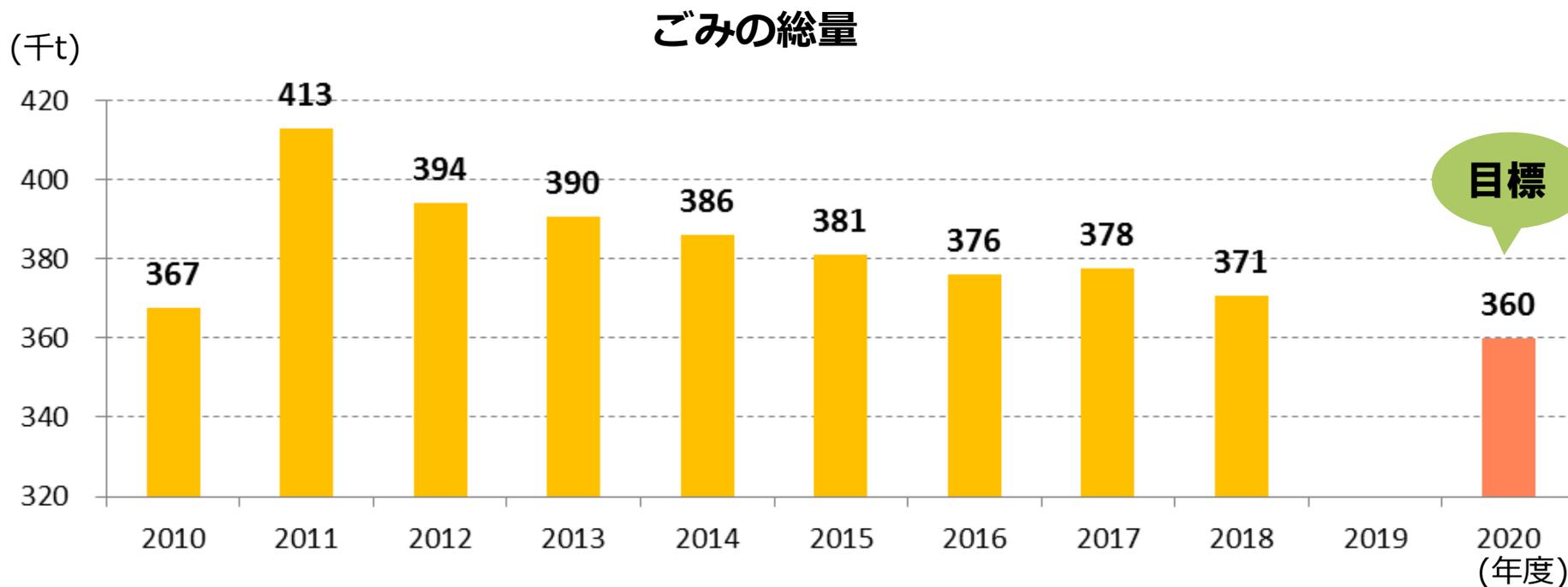
(参考)市域における普及率 0.28%



電気自動車

(2) 資源循環都市づくり

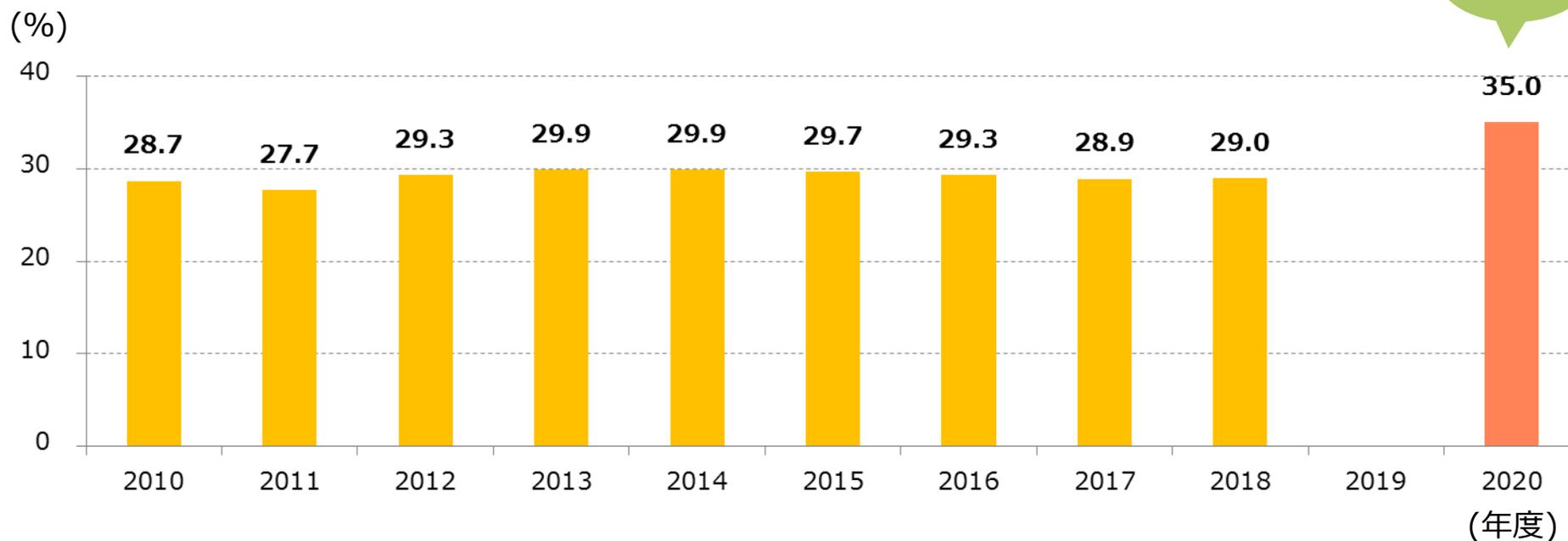
【目標①】 2020年度におけるごみの総量を360千t以下とする



- ・ 人口は増加傾向にあるものの、近年ごみの総量は減少傾向となっており、震災前の水準までに戻りつつある
- ・ 目標達成に向け、引き続き資源物の分別や、食品ロス等のごみの発生抑制を進めていくことが必要

【目標②】 2020年度におけるリサイクル率を35%以上とする

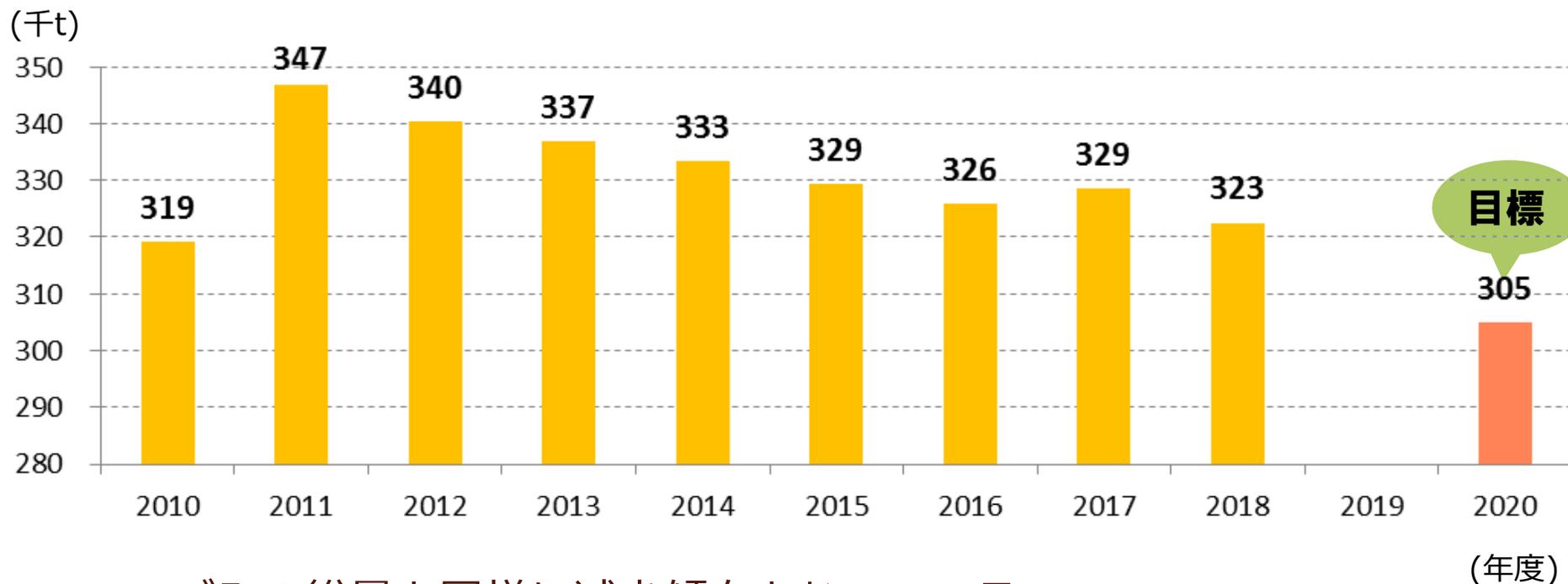
リサイクル率



- ・ 電子媒体の普及等により新聞・雑誌等の古紙が減少していることもあり、リサイクル率は横ばいの状況が続いている
- ・ 資源化が可能なごみのリサイクルを進めるとともに、分別排出の周知徹底に継続して取り組むことが必要

【目標③】 2020年度における燃やすごみの量を305千t以下とする

燃やすごみの量



- ごみの総量と同様に減少傾向となっている
- 生活ごみにおける資源物の分別や事業ごみの適正排出指導等により、燃やすごみの減量を進めていくことが必要

主な取り組み

①生活ごみの減量・リサイクル

ワケアップ！仙台キャンペーン

- ・クリーン仙台推進員や大学との連携によるごみ排出実態調査や啓発を行う「ごみ減量キャラバン」を実施
- ・紙類や布類、小型家電のイベント回収やスーパー・古紙回収業者等と連携した資源物回収キャンペーンを実施
- ・「ワケアップキャンパス」による若者発信の普及啓発を展開



ごみ減量キャラバン

食品ロス削減の取り組み

- ・投稿サイト「モッタイナイキッチン」の開設
- ・発生量や発生要因を把握するためダイアリー形式のモニター調査を実施
- ・フードドライブやモッタイナイマルシェなどの啓発イベントの実施
- ・市民団体と町内会が連携した生ごみ堆肥化の普及啓発事業の実施

若年層や外国人への啓発強化

- ・大学の新生オリエンテーションでの分別講座の実施や、外国出身の方向けの多言語ごみ排出ルールDVDの作成・ネット配信など、ターゲットを絞って啓発を強化

②事業ごみの減量・リサイクル

事業ごみ等処分手数料の見直し

- ・費用負担の適正化を図り、事業ごみの減量・リサイクルを推進するため、2018年より処分手数料を1,000円/100kgから1,500円/100kgに改定

搬入物検査装置の導入

- ・清掃工場に搬入物検査装置を設置し、展開検査を開始
- ・検査結果に基づき、排出事業者への指導啓発を強化



搬入物検査装置

事業系リサイクル支援

- ・事業ごみの分別やリサイクル推進のため、共同資源物回収庫設置費補助、事業系生ごみ処理機等設置補助、出前講座等を実施

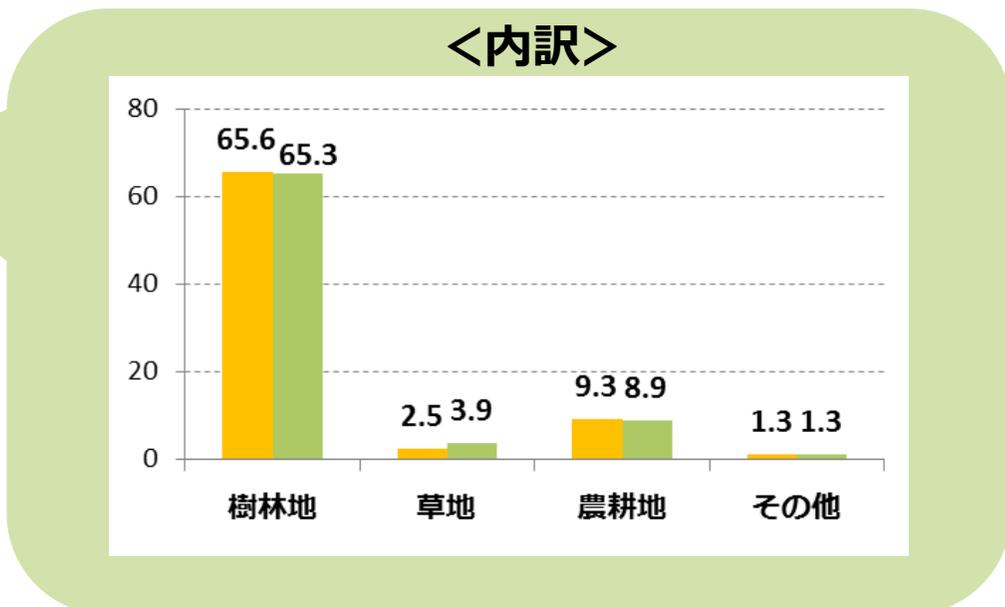
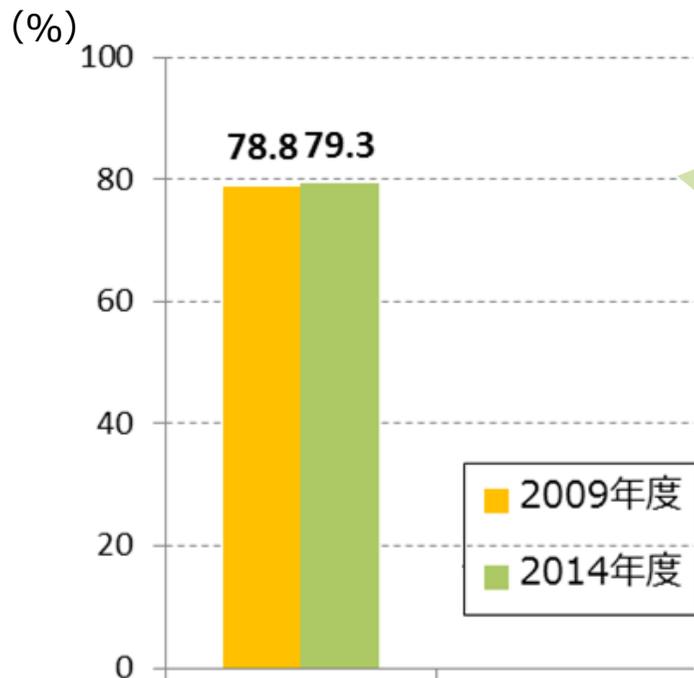
環境配慮事業者（エコにこマイスター）認定

- ・環境に配慮し、ごみ減量・リサイクル推進等に積極的に取り組む事業者を認定し、事業者の取り組みを促進

(3) 自然共生都市づくり

【目標①】 2020年度におけるみどりの総量について、現在の水準を維持・向上

みどりの総量（緑被率）

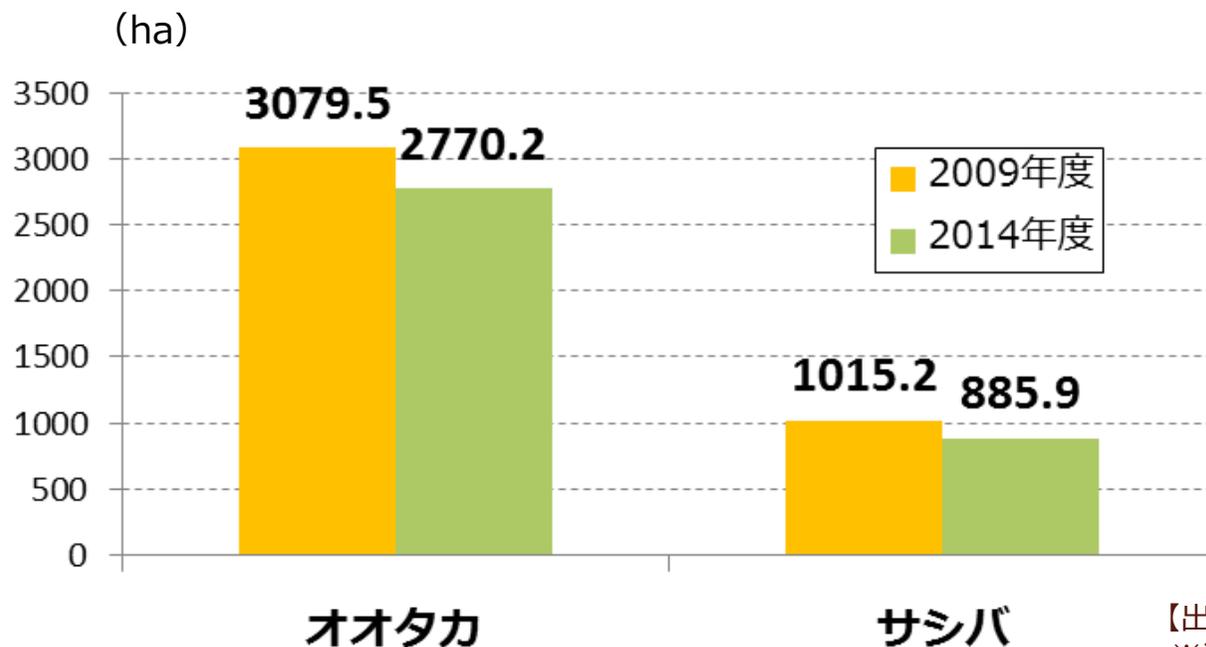


【出典】 緑の分布調査（建設局）
※今年度に調査を実施予定

- ・ みどりの総量は0.5ポイント増加
- ・ みどりの量の維持・向上の取り組みに加え、みどりの質を高めていくことが必要

【目標②】生態系の頂点に位置する猛禽類の生息環境を維持・向上

都市計画区域におけるオオタカ・サシバの生息適地面積



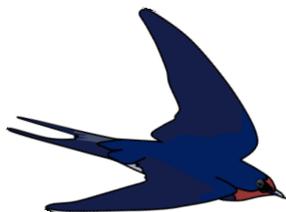
ピクイー



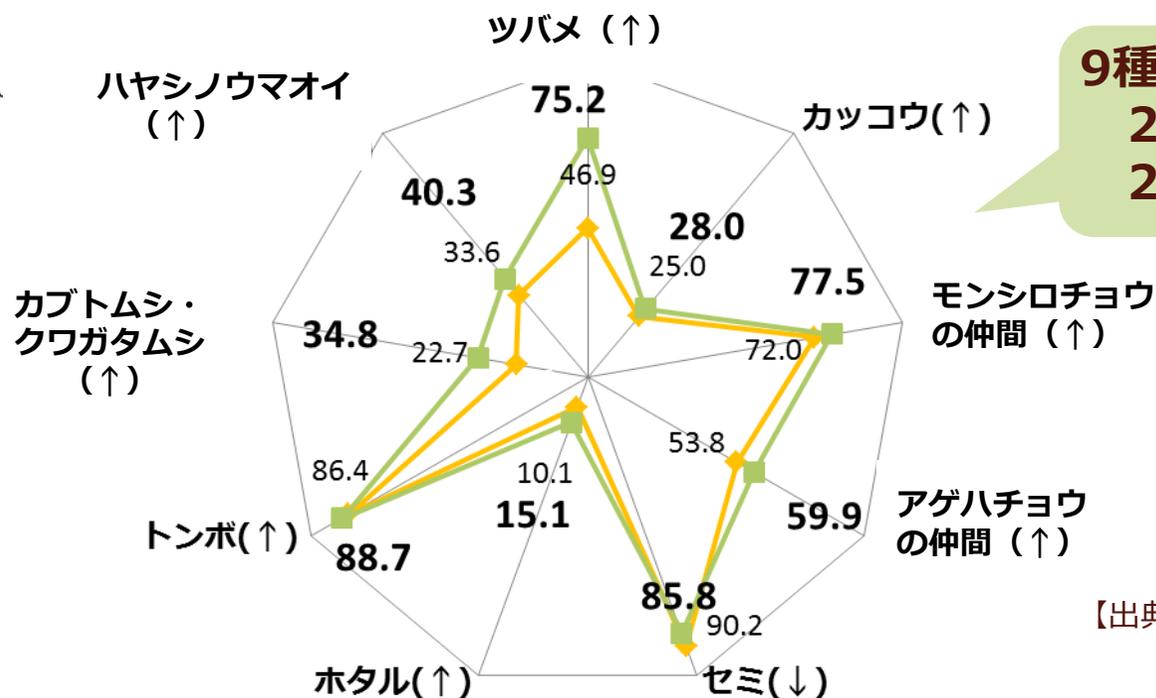
【出典】猛禽類生息環境評価調査（環境局）
※次回調査は2020年度を予定

- ・ オオタカ及びサシバの生息適地が減少
- ・ 津波による海岸林の消失に加え、郊外部における樹林地の伐採等が要因
- ・ 自然環境の保全や緑化推進に向けた取り組みが必要

【目標③】身近な生きものの市民の認識度を現在より向上させる



生きものの認識度



9種類合計 (900%中の値)
 2010年度 : 440.7%
 2019年度 : 505.3%

◆ 2010年度
 ■ 2019年度 (速報値)

【出典】身近な生きものの認識度調査 (環境局)

- ・ 9種類合計で64.6ポイント増加
- ・ 引き続き、本市の豊かな自然や多様な生きものに対する市民の理解・関心を深める取り組みを進めることが必要

主な取り組み

① 生物多様性保全推進事業～せんだい生きもの交響曲～

2017年3月に策定した「仙台市生物多様性地域戦略」に基づき、カジカガエル、カッコウなど本市に関わりの深い生きものの奏でる音に着目した啓発事業を実施

初夏の音～カジカガエルが誘う里地里山の魅力発見～

- ・ 市民等からの情報をもとに作成した「カジカガエル生息地マップ」をホームページで公開
- ・ 都市部の若者が地域住民と交流を深めながら、里地里山の魅力を体験・発見する「エコツアー」を開催



エコツアー

夏の音～カッコウを呼び戻せ！ヨシ原活用大作戦～

- ・ 市の鳥カッコウなど多様な生きものが生息するヨシ原において、年2回、生物多様性について学ぶ観察会を開催
- ・ 市民協働によるヨシ原を維持するための刈り取りを実施



ヨシの刈り取り

秋の音～将軍も愛でた伊達の虫の声～

- ・ 地域の身近な緑地等において、虫の声を楽しむ文化や歴史を学びながら野外観察を行う「虫の声を楽しむ会」を、市民センターとの共催により市内12か所で開催

②市街地における緑化の推進

市街地の緑の保全

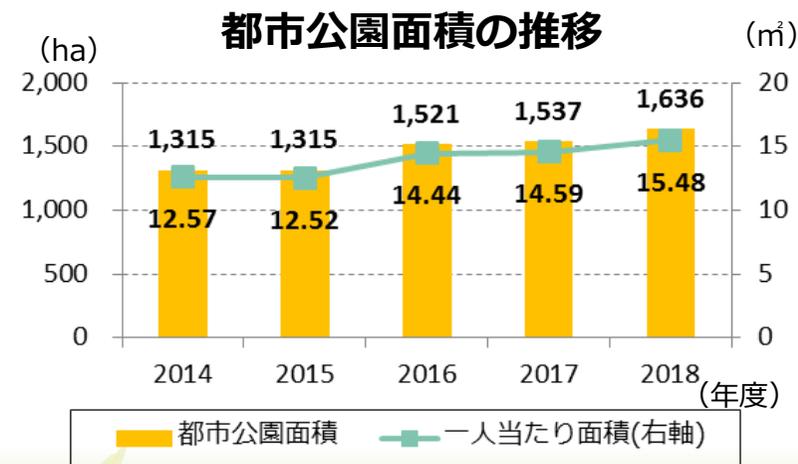
- ・ 緑の活動団体や公園愛護協力会等の地域団体と連携し、公園や緑地、街路樹等の維持管理を実施
- ・ 市街地における貴重な緑を保全するため、「杜の都の環境をつくる条例」に基づく「保存緑地」等を指定



地域団体と連携した公園管理

市街地における緑の創出

- ・ 青葉通や西公園の再整備など、緑あふれる都市空間づくりを推進
- ・ 緑化計画認定制度や地区計画制度の運用により、建築物等における緑化を推進
- ・ 住宅の生垣づくりや地域の花壇づくり等に対して助成
- ・ 在来樹種による緑化や、自然環境を活かした公園緑地の整備など、生物多様性に配慮



③野生鳥獣対策

ツキノワグマ対策

- ・2017年度より、ホームページに「クマ出没情報マップ」を掲載
- ・クマの生態等を解説する市民講座や企画展を開催し啓発
- ・クマ出没時には、被害防止のため、専門家による調査や迅速な注意喚起を実施
- ・人身被害の恐れがあるなど、特に危険な場合は、2018年度より県から移譲を受けた緊急捕獲権限により対応



企画展「仙台とクマ展」

ニホンザル対策

- ・人里に繰り返し出没する群れについて、大型捕獲施設等による捕獲や、関係機関と連携した大規模追い上げを実施
- ・2018年度より、ホームページに「サル群れ情報マップ」を掲載

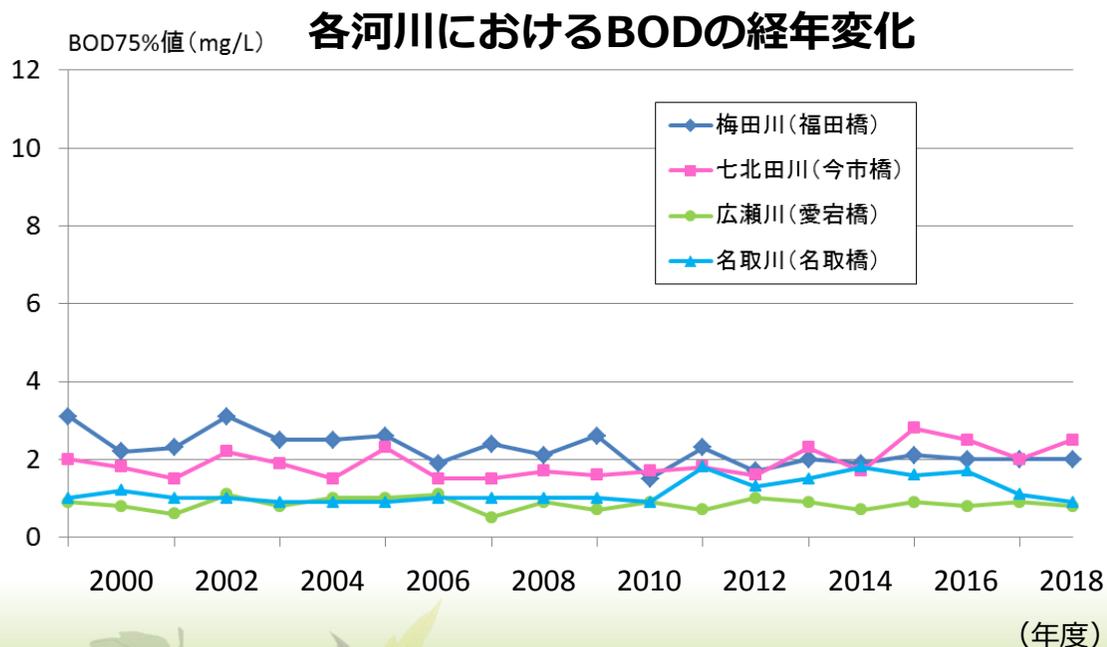
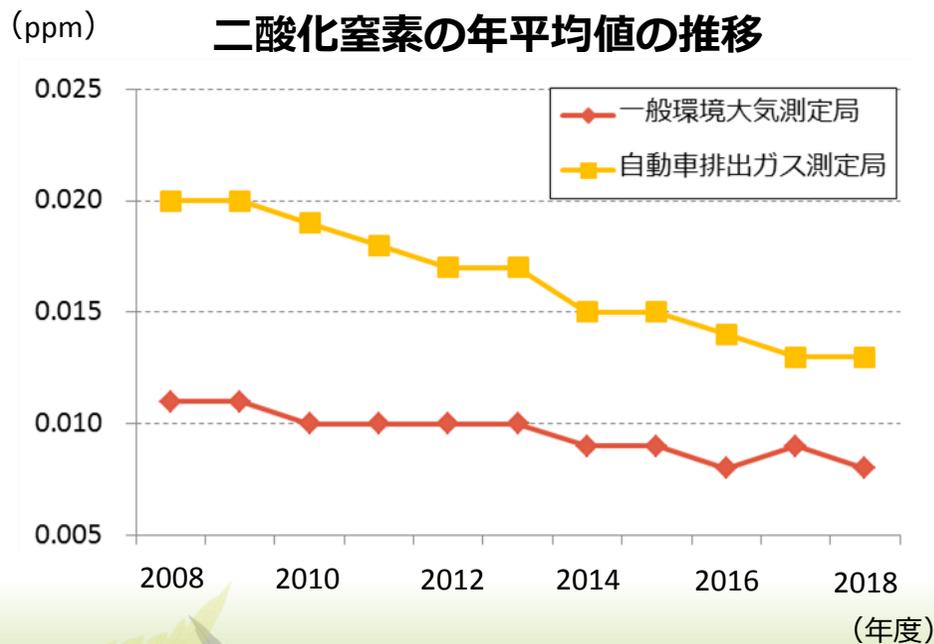
イノシシ対策

- ・2018年度より「鳥獣被害対策実施隊」を設置し、捕獲に従事する猟友会隊員を市の特別職非常勤職員として任命し、捕獲体制を強化
- ・地域の住民が箱わなの設置や見回りを行う「地域ぐるみの捕獲対策」を推進

(4) 快適環境都市づくり

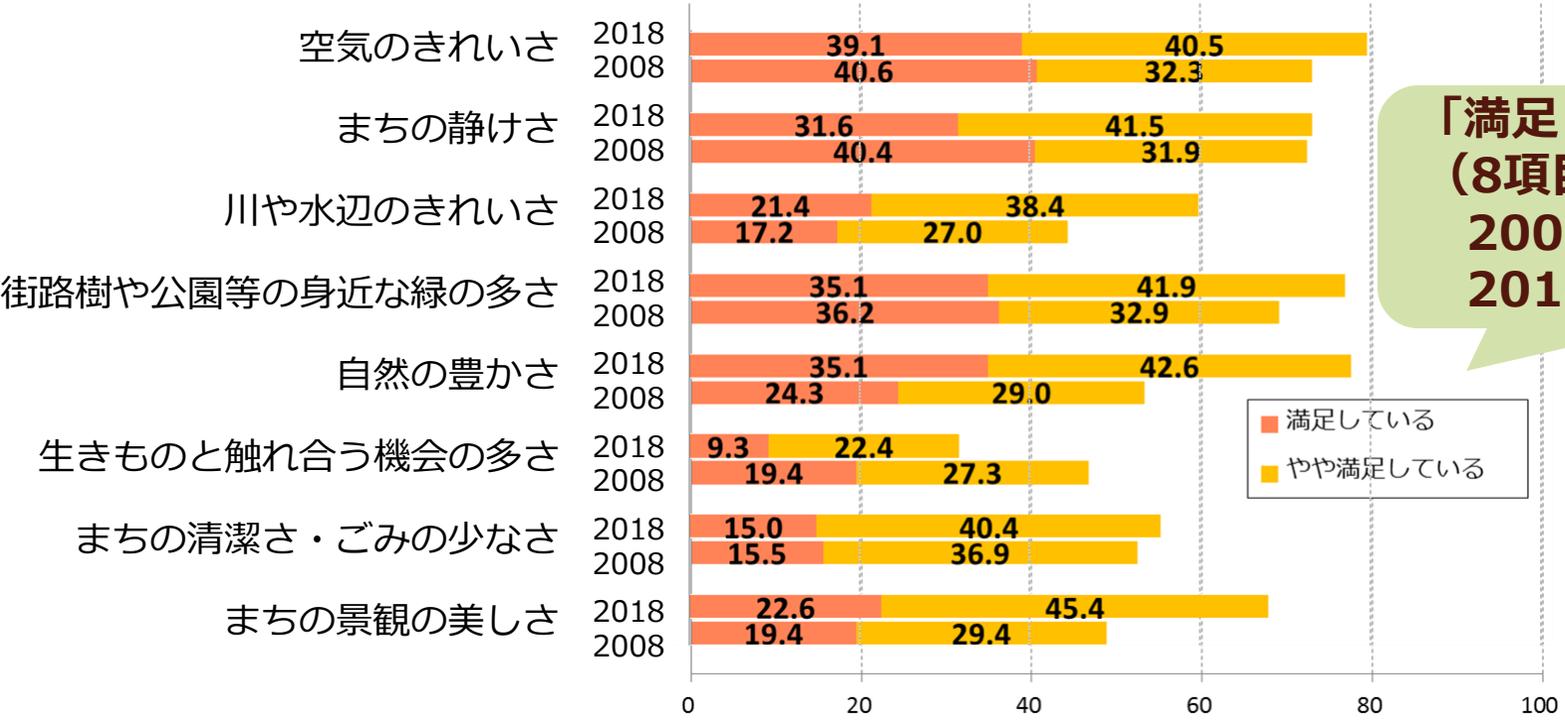
【目標①】 大気や水、土壌などに関する環境基準について、非達成の場合にはできる限り速やかに達成し、達成している場合にはより良好な状態を維持する

- ・ 大気汚染、水質汚濁、騒音に係る基準について一部非達成の項目があるものの、全体では概ね良好な状態を維持（2018年度）
- ・ 引き続き、関係法令に基づく適正な規制や指導等により、事業者の環境負荷低減を促進するなど、良好な環境の保全に努めていくことが必要



【目標②】 2020年度における市民の「環境に関する満足度」について、「満足している」と回答する人の割合を現在(2008年度)より向上させる

市民の環境に関する満足度



**「満足している」との回答
(8項目合計800%中の値)
2008年度：213.0%
2018年度：209.2%**

【出典】2018年度環境に関する市民意識調査（環境局）

- ・ 8項目合計で3.8ポイント低下
- ・ ただし、「満足している」と「やや満足している」を合わせた回答では、8項目中7項目で前回より上回っており、市民の環境に対する満足度は概ね良好
- ・ 引き続き、各環境施策を推進し、良好な環境の保全に努めていくことが必要

主な取り組み

① 快適な生活を支える良好な環境の保全

事業者の環境負荷低減の促進

環境アセスメント制度や、環境関係法令に基づく規制・指導等により、事業者の環境負荷低減対策を促進

大気環境等の常時監視

- ・市内21か所の大気測定局にてPM2.5などの大気汚染物質濃度を常時監視し、ホームページや各区役所・総合支所に設置したディスプレイで情報を提供
- ・主要な幹線道路を対象とした自動車騒音や、河川・海域・地下水等の水質について、定期的な調査を実施

石炭火力発電所への対応

- ・石炭火力発電所の立地抑制を図るため、2017年5月に環境アセスメントの規模要件を撤廃。同年12月には、市域内への立地自粛を促す新たな指導方針を策定
- ・仙台港周辺への石炭火力発電所の立地を踏まえ、蒲生干潟近辺にPM2.5の測定局を開設するなど、大気や海域の調査を強化



移動測定車による大気調査

自動車環境負荷の低減

- ・車体にラッピングした電気自動車を公用車として業務で使用するに加え、イベント展示等により市民への普及啓発を実施
- ・のぼり旗や懸垂幕の設置、バス広告等を通じて、アイドリング・ストップを呼びかけるなど、エコドライブ運動を推進



観光バスへのアイドリング
ストップの呼びかけ

環境美化の取り組み

- ・ごみの散乱のない美しいまちを目指し、市民や事業者との協働でまちの美化活動に取り組む「仙台まち美化サポート・プログラム」等を推進
- ・「全市一斉『ポイ捨てごみ』調査・清掃活動」を中心とする「アレマキャンペーン」を実施し、市民のまち美化活動への参加を促進



アレマキャンペーン

(5) 良好な環境を支える仕組みづくり・人づくり

【目標】 2020年度における、日常生活における環境配慮行動について「常にしている」人の割合を現在(2008年度)よりも向上させる

19項目合計1900%中の値
 2008年度：632.3%
 2018年度：638.0%

「常にしている」と回答した市民の割合 (%)

項目	2008	2018	項目	2008	2018
電気やガスなどの節約を心がける	41.3	29.1	マイバッグ等を持参しレジ袋を断る	49.9	60.2
省エネ製品などを選んで購入する	28.6	26.7	コンビニ等で割りばし等をもらわない	26.5	29.1
できるだけ自家用車の利用を控える	17.2	16.2	庭やベランダで木や花、野菜を育てる	48.6	37.3
エコドライブを心がける	37.3	18.2	公園や川、海や森などで自然に親しむ	14.9	15.0
車を買う際、環境に優しいものを選ぶ	24.7	28.2	地元産や旬の食材を選んで買う	26.7	25.6
自宅に太陽光発電設備等を設置する	3.5	7.4	エコラベルがついた商品や環境に優しい原材料を使用した製品を選んで買う	10.1	11.4
自宅の断熱性を高くする	26.0	36.6	ごみのポイ捨てをしない	64.4	85.9
生ごみは十分に水切りする	42.5	44.9	環境に関する講座やイベントに参加する	3.1	1.7
紙類は分別し紙類定期回収等に出す	65.2	68.1	地域の清掃や資源回収活動など環境に関する活動に参加する	13.9	17.0
プラスチックや缶・びん等は分別して収集に出す	85.5	81.8			

【出典】 2018年度環境に関する市民意識調査（環境局）

- ・ 「常にしている」人の割合は、19項目合計で5.7ポイント増加
- ・ より一層の環境配慮行動の実践に向けて、引き続き環境教育・学習の推進や、情報発信に努めていくことが必要

主な取り組み

① 市民協働による環境教育・学習の推進

杜の都の市民環境教育・学習推進会議（FEEL Sendai）

- ・市民・NPO・学校・事業者・行政の協働により、総合的な環境教育・学習を推進

取り組み	内容
杜々かんきょうレスキュー隊	環境団体が主体となり、幼児～小・中学生を対象とした24の環境学習プログラムを作成し実践 【実践件数】2018年度 81件
[環境社会実験] 未来プロジェクトin仙台	環境配慮型の取り組みの拡大や定着を図るための企画を募集し、2018年度は3団体の企画を採用し実施
環境フォーラムせんだい	市民・NPO・学生等で構成する実行委員会が企画から運営までを行い、市民が楽しみながら環境への理解を深められる機会を創出 【参加人数】2018年度 約1,300人
せんだい環境ユースカレッジ	若い世代を対象に、環境団体等での活動体験を通じて環境教育に携わる人材を育成 【修了生数】2018年度 5名

学校教育・生涯学習の推進

- ・各小中学校において、生徒が主体的に環境保全について考え実践する「杜の都のエコ・スクール」活動を実施
- ・市民センターや科学館、動物公園等において、市民や地域住民を対象とした環境に関する学習機会を提供する講座やイベントを開催

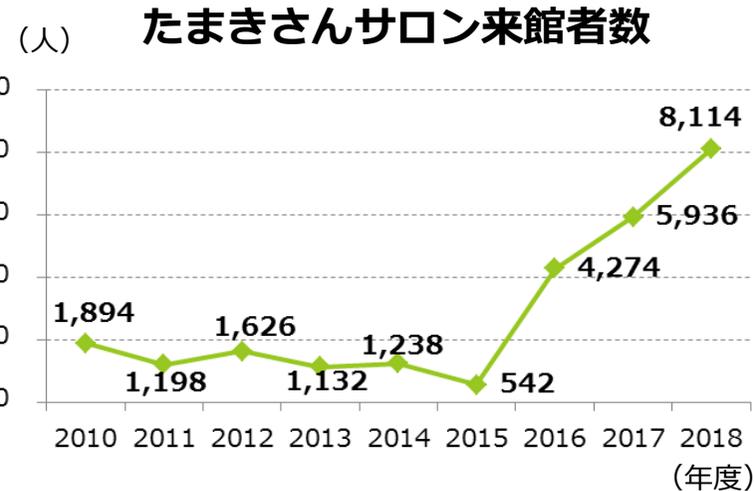
②環境についての情報発信や交流・連携の推進

せんだい環境学習館（たまきさんサロン）

- ・環境教育・学習の拠点施設として、多様なテーマで環境について学ぶ「サロン講座」を定期的で開催
- ・環境関連図書の貸出や大学と連携した小学生対象の環境学習プログラムを実施
- ・環境団体等の活動や交流の場として、セミナースペースを無料で貸出

ホームページやイベント等を活用した情報発信

- ・環境WEBサイト「たまきさん」や、ごみ減量・リサイクル情報総合サイト「ワケルネット」等のホームページの活用や、エコフェスタ、環境フォーラム等のイベントの開催など、様々な媒体・手法を通じて、環境に関する情報を発信



※2010-2015は、環境交流サロン（たまきさんサロンの前身）の来館者数



エコフェスタ